



日本共産党 品川区議会議員 区政報告
 のだて 稔史 とし ふみ ニューズ

区政報告について
 ご意見、ご要望を
 お寄せ下さい。

事務所：品川区豊町6-2-1 Tel：03-3786-6674
 区議控室：品川区広町2-1-36 Tel：03-5742-6818

「29号線が災害になっている」「生まれ育った町を壊さないで」

修復型まちづくりへ転換を

2018年度の予算を審議する予算委員会で私が総括質問を行い、住民を追い出す道路や再開発などのまち壊しから修復型まちづくりへの転換を求めました。

住民追い出しの29号線道路

29号線により500棟以上の立ち退きが生じます。まちを築き上げてきた人々を追い出すもので、まるで災害のようです。

「これがまちづくりなのか」と質問すると区は「防災のため必要」と従来通りの返答。しかし、道路の両側で火災が発生すれば延焼遮断の意味はありません。片側でも1000棟も燃えてしまうのでは住民を守れません。建物が建て替われば道路は必要なくなります。

住民追い出しの29号線に600億円も税金を使うのではなく、防災ならば進まない住宅の耐震化や不燃化を抜本的に進めるために使うべきです。これなら住民も住み続けられます。

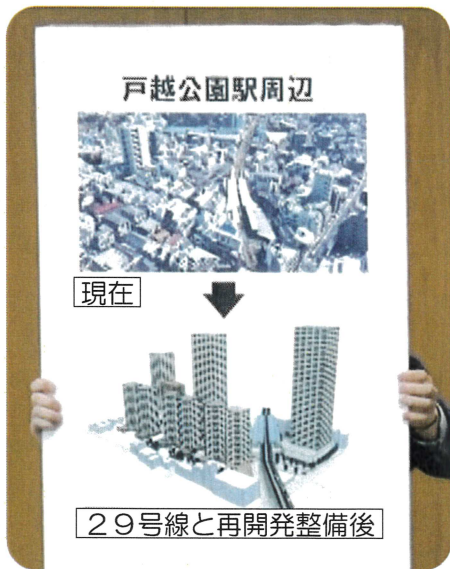
大企業のための再開発

29号線と一体に再開発が進められています。戸越公園駅前には24階建て90坪の超高層マンションが計画されています。総事業費126億円の約1/3の補助金（税金）が投入されます。建物を高くしてできた売却床を売り払い大企業の多額の儲けを生み出します。

地域の方からは「まちを壊さないでほしい」「日陰や風の影響が心配」との声が上がっています。

超高層再開発ではない別のまちづくりが必要です。ウラへ

◀戸越公園駅周辺再開発計画の前後のパネルを提示



のだて稔史プロフィール

1985年品川区生まれ、32歳。八潮北小、八潮中、都立雪谷高校、東洋大学工学部建築学科卒。建築設計事務所で6年間働く。2015年4月初当選。戸越5丁目在住。家族は両親と兄。シブリ映画、バドミントン、テニスが好き。

身近に必要な施設がある まちづくり

品川区のまちづくりで足りない視点は今の住民を基本にし、誰もが住みやすいまちづくりです。

再開発で新しい人を呼び込むばかりでは急激な人口増で施設整備が間に合いません。

保育園や特養ホーム、障害者施設などを身近に増やすことや公園トイレの洋式化、高齢者などの移動する権利を保障するためコミュニティバスを運行するなど身近な場所に必要な施設があるまちづくり、良い所は残し悪い所は直す修復型のまちづくりを区に求めました。

区は「これまで通りまちづくりマスタープランの課題解決を進める」と答弁。その課題とは戸越公園駅周辺では踏切が6か所あることや29号線が未整備なこと。29号線が必要ないことは明らかになり、踏切は鉄道の高架化で済みます。破綻した道路

や超高層再開発のまちづくりからの転換を引き続き求めます。

障害者施設がない

例えば障害者施設は荏原地域にほとんどありません。区は必要性を認めているにもかかわらず主体的に作ろうとしません。

これをただすと区は「区立にこだわらず整備する」といいますが、民間任せにしてきたことにより施設がないという現状があります。区自らが増設に踏み出すべきです。

品川区の障害者サービス基盤（通所・入所）

	品川	大崎	大井・八潮	荏原東	荏原西
通所施設	品川障害者福祉センター			荏原東障害者福祉センター	荏原西障害者福祉センター
入所施設				荏原東障害者福祉センター	荏原西障害者福祉センター

※ 荏原東・荏原西に2カ所のみ

▲障害者施設が荏原地域に2カ所しかない事を示すパネルを提示



・4月7日、特定整備路線全都集会が行われました。会場いっぱいの参加者が駆けつけました。共産党からは吉良、山添両参院議員も参加。行政が勝手に決めた70年前の計画をストップさせようと訴えました。都内で特定整備路線に関する裁判は6件も。各弁護士団がパネルディスカッションを行いました。「大昔の計画をすすめる脱法的進め方がおかしい」「再開発のために道路がつくられ五輪後にゼネコンが儲けるためのもの」と弁護士から語られました。

日本共産党

無料

法律相談

5月8日(火) 午後6時～8時

会場：のだて稔史事務所 豊町6-2-1

お気軽にご相談下さい。弁護士とお話を伺います。
できるだけ事前にご連絡ください。TEL 3786-6674